

テーマ
展

天の美^び緑^{ろく}

— 酒にまつわる美術 —



四季遊^{しきまそひす}図

当館蔵

「四季遊図」と題し、春の花見、夏の舟遊び、秋の月見、冬の聞香の四図を順に描いた巻物。酒が登場しないのは冬のみで、ほかは、或いは酒を飲み、或いは三味線を奏でる賑やかな宴の様子が描かれています。髪型や服装などから元禄期頃の作と思われる。

大盃を手にする者、酔いつぶれて介抱される者、片肌脱いだしどけない体の者等々、鮮やかな色彩と相俟って、浮世を楽しむ明るい世相がよく表れています。

1/ 1 (金・祝)
2/ 2 (火)

展覧会
情報

テーマ展

直^{ちか}綱^{つな}のころ

井伊直^{いの}弼^{すけ}の甲冑^{かっちゅう}と刀剣

11月27日
12月23日

特別公開

弥^{やちよ}千代^{ひな}の雛^{ひな}と婚礼調度

2月5日
3月8日

テーマ展

近江ゆかりの工匠^{たくみ}

— 刀工・鐙師・鉄砲鍛冶 —

3月11日
4月12日



展示案内

12月～3月

● 常設展示 ●
ほんもの“どの出会い”

彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示



テーマ展 展示室1

11/27 (金) ~ 12/23 (水・祝)

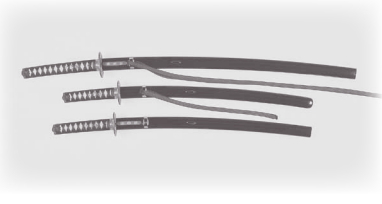
直弼のころ

井伊直弼の

甲冑と刀剣

七月から五回にわたり開催してきた「シリーズ 直弼のころ」もいよいよ最後となります。本展では、彦根藩井伊家十三代直弼の武の出で立ちを紹介します。

直弼所用の甲冑は、具足下や草鞋などの道具一式が揃い、当時の戦装束が分かる好例です。一方、刀剣は指料と居合刀が伝存します。指料は、江戸時代の名工の作で、これを収める拵の黒漆や緻密な細工など、名匠の技も見逃せません。



黒髹色塗鞘大小拵・小き刀拵

こうした作品を通し、「直弼のころ」の一端も垣間見ていきます。

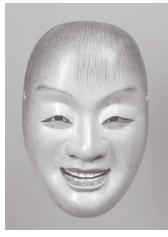
テーマ展 展示室1

1/1 (祝) ~ 2/2 (火)

天の美祿

— 酒にまつわる美術 —

「天の美祿」とは、酒のすばらしさをほめたたえる酒の異名です。古来、人々は酒を愉しみ、またそれに関わる様々な美術作品を生み出してきました。賑やかな遊宴の様子を描いた絵画や色鮮やかな酒器、酒に酔いしれて舞い戯れる狸々の面など、酒にまつわる品々で新春を彩ります。



能面 狸々 是閑吉満作



朱漆塗養老溜図 時絵大盆

◎ギャラリートーク◎

■日時 1月9日(土) 11時～、14時～

■講師 高木文恵(当館学芸員)

特別公開 展示室1

2/5 (金) ~ 3/8 (火)

弥千代の雛と

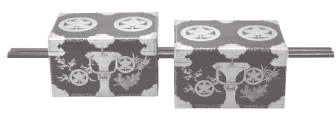
婚礼調度

安政五年(一八五八)四月、井伊家十三代直弼の息女弥千代は、高松藩松平家の世子頼聡に嫁ぎました。

本展では、この婚礼のために調えられた婚礼調度や雛人形、婚礼調度の精巧なミニチュアとして作られた大揃えの雛道具を一堂に公開します。桃の節句にふさわしい雛と雛道具の飾りを、豪華な婚礼調度とともにご覧下さい。



雛道具のうち 打掛・衣箱



黒漆塗松竹梅 橘紋時絵扶箱

◎ギャラリートーク◎

■日時 2月6日(土) 11時～、14時～

■講師 奥田晶子(当館学芸員)

テーマ展 展示室1

3/11 (金) ~ 4/12 (火)

近江ゆかりの工匠

— 刀工・鐺師・鉄砲鍛冶 —

近江の地では古くから刀や鉄砲の工人が活躍してきました。その中には、鐺に躍動かつ立体的な彫出を施した藻柄子宗典のような、全国的に名を知られた名工もいます。

本展では、館藏品の中から、近江にゆかりのある工匠が制作した刀や鐺、鉄砲などの武器を、江戸時代の作品を中心に紹介します。それぞれので工匠たちの巧みな技はもちろん、初公開の作品にもご注目ください。



刀 銘下総大塚藤原兼正



武者合戦図鐺 鈴江州彦根住 藻柄子喜多河 入道宗典製

◎ギャラリートーク◎

■日時 3月12日(土) 11時～、14時～

■講師 古幡昇子(当館学芸員)

金亀玉鶴



徳川家康の家中序列構想

―徳川一門衆としての井伊直政―

井伊直政は、徳川家康の筆頭家臣としてその天下掌握に貢献した人物です。関ヶ原合戦の際には、政治交渉により豊臣恩顧の武将たちを徳川の味方につけ、合戦を勝利に導く功績を挙げました。

最近、徳川家臣団の中の井伊直政の立場を考える好史料が紹介されました。原史彦氏「新出史料『徳川家康書状 豊臣秀保宛』および『式御成之次第』について」(『金鯉叢書』第四十一輯 二〇一四年)において、文禄四年(一五九五)三月二十八日、太閤豊臣秀吉による徳川家康の京都邸への御成が行われた際、家康の子息とともに直政が進物を献納しており、その順序は徳川秀忠(家康三男、嫡子)、結城秀康(家康二男)、直政、松平忠吉(家康四男)とする史料が示されました。この御成は「式正の御成」と呼ばれる公式な訪問であり、徳川家では、公家・武家を引き連れた秀吉を礼法にのっとり接待しました。御成での献納は一門衆からなされるのが通例であることから、直政が徳川一門の扱いを受けていたことが指摘されています。

一門衆とは、家臣団の上層を占める当

主一族(息子・兄弟・親族)のことで、戦国大名の家臣団で一般的に存在しました。しかし若い頃の徳川家康には、母の実家の水野氏や娘の嫁した奥平氏などの親族はいなかったものの、これらは家臣の家に位置づけられており、家臣団の中に一門衆とする親族はいませんでした。

そのような家康も、天正十四年(一五八六)に豊臣政権の体制内に組み込まれたのを機に、直政を一門衆の立場に置いたと考えられます。豊臣政権は諸大名らに官位を授けて序列化をはかっており、家康とその重臣も官位を得ました。その官位は、他の重臣が「諸大夫」だったのに対し、直政はそれより上位の「侍従」でした。侍従には有力大名が多く任じられており、直政は大名家臣の扱いではなく、大名一門の格式に位置づけられたと言えます。

では、なぜ直政は徳川一門に位置づけられたのでしょうか。

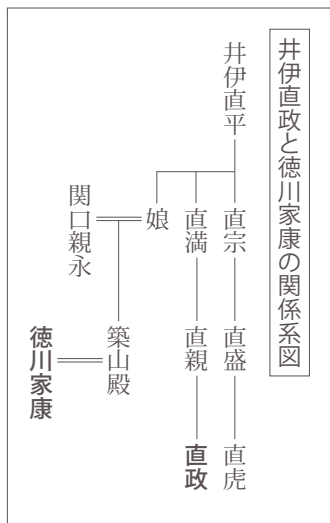
直政は、家康配下に入ったのは天正三年と遅く、家臣団の中では外様の扱いとなります。ところが、一世代前、川氏時代の勢力関係では、井伊と徳川はともに国衆という同等の格で、さらに遡ると井伊は鎌倉幕府の御家人でもあり、徳川より名家と認識されていた。

また、徳川と井伊は親戚関係にありました。家康正室の築山殿の母は井伊氏の娘といわれています(系図

参照)。

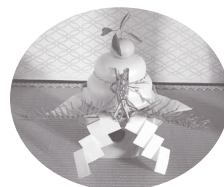
家康は、天正十年(一五八二)、親戚関係もあり能力的にも優れた直政を家臣団の中核に取り立て、侍大将としました。ただ、この時点では若年でもあり、譜代の先輩諸将より下位の序列でした。豊臣政権に入る際、今後、政権内で交渉・交際する上で一門衆・侍従という格式の家臣がいることは有効と考え、直政を一門衆に取り立てたのではないのでしょうか。この時点では合戦での功績も積んでおり、直政を家臣最上層に位置づけるのに問題はなかったでしょう。

江戸時代を通じて、井伊家は譜代大名筆頭の格にありましたが、他の譜代大名には見られない役割として、將軍の名代や將軍世継ぎの後見など、將軍個人の權威の補佐がありました。これらを共に担ったのが会津松平家や高松松平家など家康の孫世代に成立した徳川一門の大名だったことを考え合わせても、徳川家中における井伊家の立場は、一門衆の系譜を引くと言えるでしょう。(野田浩子)



博物館の正月飾り

年末になると、博物館では能舞台に注連縄と鏡餅を供えて、新たな年を迎える準備をします。



また、井伊家当主の甲冑には、太刀と弓を備えた具足飾を施します。これは、武家の正月行事である具足祝に做ったものです。

新春を彩るめでたい飾りを、この機会には是非ご覧ください。

■期間 1月1日(金・祝) ~ 1月10日(日)



彦根城博物館

Facebook

博物館では、Facebook ページを公開しています。展覧会やイベント情報のほか、展示の見どころなども発信していますので、お見逃しなく!

彦根城博物館 フェイスブック

検索



スケジュール 12月～3月

3月	2月	1月	12月
<p>19土 鷗鳴会 老中奉書修理完了記念講演会</p> <p>12土 近江ゆかりの工匠 —刀工・鑄師・鉄砲鍛冶—</p>	<p>6土 弥千代の雛と婚礼調度</p>	<p>30土 鷗鳴会 信長・秀吉・家康 天下人と家臣たち</p> <p>23土 教皇 古文書のみかた⑧</p> <p>9土 天の美祿 —酒にまつわる美術—</p>	<p>5土 知的美術探訪 —受け継がれる主題—</p> <p>19土 教皇 古文書のみかた⑦</p>
<p>テーマ展 近江ゆかりの工匠 —刀工・鑄師・鉄砲鍛冶— 3/11～4/12</p>	<p>特別公開 弥千代の雛と婚礼調度 2/5～3/8</p>	<p>テーマ展 天の美祿 —酒にまつわる美術— 1/1～2/2</p>	<p>テーマ展 直弼のころ 井伊直弼の甲冑と刀剣 11/27～12/23</p>
<p>常設展示 “ほんもの” との出会い</p>			
<p>3/9-10 展示替により一部休室</p>	<p>2/2-4 展示替により一部休室</p>		<p>12/24 展示替により一部休室</p>

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

催し

● 美術講座 ●

知的美術探訪 —受け継がれる主題—

日本の美術作品には、さまざまな題材が古くから引き継がれてきました。作品に表された風景や人物にはどのような意味があるのか、どのような物語があるのか、主題の内容を知ること、美術作品の鑑賞がより楽しく、より豊かなものになります。

本講座では、絵画、やきもの、刀装具に焦点を当て、それらによく見られる主題（テーマ）の内容を当館学芸員が紹介します。



■日時・内容

12月5日(土) 13時30分～16時20分
第1講 「絵画と名所」(高木文恵)
第2講 「やきもの」と中国故事
(奥田昂子)

第3講

「刀装と軍記物語」
(古幡昇子)

■会場

当館講堂

■定員

50名

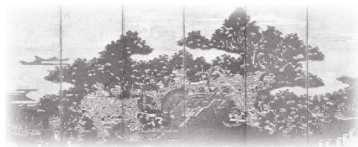
■資料代

200円

*1講のみの受講の場合も同額

■申込

当日受付(先着順)



● 城郭博物館三館連携講演会 ●

信長・秀吉・家康 天下人と家臣たち

戦国乱世を統一するという大事業は、天下人ひとりの力で為し遂げられたわけではありません。彼らを支える家臣たちの力に負うところも大きかったです。

どのような家臣たちが、どのようにして主君を天下人に押し上げたのでしょうか。各博物館の学芸員が、信長・秀吉・家康それぞれの家臣団のあり方を比較検討することで、戦国から江戸時代への変化を考えます。

■日時・内容

1月30日(土)

13時30分～16時30分

「織田信長と家臣たち」高木叙子

(滋賀県立安土城考古博物館)

「豊臣秀吉と家臣たち」牛谷好伸

(長浜市長浜城歴史博物館)

「徳川家康と家臣たち」松浦智博

(彦根城博物館)

■会場

彦根商工会議所 大ホール
(彦根市中央町3-8)

■定員

225名

■費用

無料

■申込

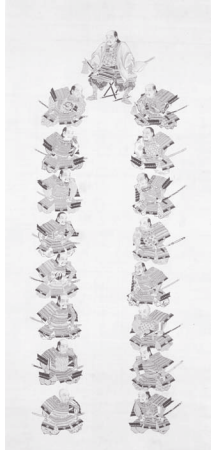
当日受付(先着順)

■問合せ先

滋賀県立安土城考古博物館

■電話番号

0748-4612424



彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100

FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。